

2011.3.31 「菅総理のパフォーマンスが原発事故を悪化させた」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は3月31日、年度末であります。これから参議院の本会議場でいわゆる年度末、日切れ法案などを我々野党も協力して可決する運びになりました。しかし本当は、三月の予算委員会で菅内閣はなくなっているはずだったのです。けれども、今般の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響で彼らの誤りを問い質すことができなくなってしまいました。これは非常に大きな問題です。

以前にも申し上げましたが、菅総理の誤った判断が原子力発電所の事故をより深刻なものにしているのではないかという疑惑、これを裏付ける報道もありました。この記事は3月28日の東京新聞の朝刊に掲載されています。これによりますと地震が起こったのは、3月11日の午後2時46分で、その後、午後10時半の状況で、経産省の原子力安全保安院が「このまま福島第一原発を放置しておく、と、炉心が露出して燃料の融解が始まってしまう、だからただちにベントしなければならない」とこのような趣旨の発表をし、報告書を提出しています。それにもかかわらず、総理が翌日の12日、午前7時11分に現地入りして8時4分までその場で陣頭指揮を執ったとのこと。これが非常に大きな問題でして、つまりこの災害が起きた直後から、炉心溶融が可能性としてあるからベント、つまり排気をして圧力を下げ格納容器が爆発しないようにし

なければならないと技術者は言及していたわけですね。しかし実際にベントされたのは、12日の午後2時半でした。その原因が一体どこにあるのか私も疑問に思っており、この問題は私の同僚の磯崎陽輔議員が予算委員会の総括質疑で追及されました。それによると要するに官邸では12日の午前1時30分の状態でベントをすべきだったと菅総理と海江田経産大臣が判断をして、東電にもこのことを通告したというふうに答弁をしております。それにも関わらずなかなか、東電はベントをしなかったわけです。そしてベントをすると通告してきたのが12日の朝の8時30分にしたが、実際にベントがされたのはそれから4時間後の午後2時半でした。

つまりこの問題を時系列に並べてみると明らかなのは、早い段階でベントを指示したにもかかわらず、これができなかった。その原因がどこにあったのかといえば、総理が原発の視察に行ったからではないでしょうか。ベントをするとう当然核物質が飛散する恐れがあります。ご存じのように陸上自衛隊のヘリコプターが上空から海水をぶっかけることがありましたが、それをするにも鉛を何重にもするなどの準備をしないとなりませんでした。総理が当然あの日に行くとなると、そのような準備をする暇はないわけですから、放射性物質の拡散を伴うベントの前でなければなりません。そういうことを考えると、総理が来るのに合わせて、ベントを始める時間を延ばしたということが十分考えられるわけです。

これを総理に質問すると「違う、私は視察と原発の事故に何の因果関係もない。私が視察に行ったから遅れたのではなくて、東電に早くベントをしろと言っていたのにできなかったのだ」と、こういう答弁をされているわけです。これもおかしい話です。もしも東電に1時半にベントをするように指令を出しているわけですから、その時点で解放していれば、総理は当然視察に行けなかったわけです。だから総理の視察を実現させるために東電が処置できなかった可能性が非常に高いと言えるのです。もしもそうであるのならばとんでもない話であります。そして結局この答弁でも明らかになってきましたが、ベントには電磁石で開けたり閉じたりする電磁弁と、空気のプレッシャー、圧縮空気を開けたり閉めたりする圧力弁の2種類がありました。電磁弁は装置として壊れていたから意味をなしていませんでしたが、圧縮弁は人力でやる方法で、圧縮空気によって弁を開けるものです。ところがこれもうまく作動しなかったようです。ここにも私は非常に大きな疑問を感じております。というのも、1時半の段階で操作すれば圧縮弁は開けることができたのではないのかと思うのです。つまりその時点では炉内の圧力はそこまで大きくなっていなかったと思います。ところが総理が視察に来るためにそういった作業をどんどん後回しにして、時間を延ばさざるを得なくなり、そうこうしているうちに炉内の圧力が非常に大きくなってしまった。そして炉内の圧力が高くなりすぎて、開けることができなくなった弁のために新たな圧縮装置を持ってきて、接続するのに4時間も

かかり、結局 12 日の午後 2 時半になってしまったということだと思います。まさに総理の視察が圧縮弁のベントを遅らせたと言わざるを得ません。これによって、その直後の水素爆発を引き起こしたり、2 号機の場合には一部が損傷したり、とにかく大きな事故を招くことになったのです。この問題はこれから原子力事故の初動体制の問題として厳しく事実関係を糾弾されなければならないと思っております。

いずれにいたしましても、私はもし総理が言うように自分の視察によって炉の圧縮弁を開けるのを遅れさせたのではないとしても、そもそもそういった場所、つまり被曝する可能性があるところに総理自身が行くこと自体が危機管理の観点からもあり得ないわけです。そして、一番大きな疑惑というのが、先ほども言ったように、総理が視察に行くと言ったために圧縮弁を開くことができなかったというものであります。上述したことからも菅総理にこれからの復興を任せるわけにはいかないと思っています。そして、この地震が起きる以前から私は菅総理の総理としての資質、資格の問題を厳しく追及してまいりましたが、このたびの災害で彼がその器でないことがはっきりしました。地震が起きた今は有事でそのようなことを言っている場合ではないのではないか、という意見もありますが、有事だから菅総理に協力するというのは詭弁でしかないと思っております。私はやはり菅氏には直ちに総理を辞めていただいて、身を切った上で民主党が自民党に協力を要請するというのであれば否定は

いたしませんし、すべきだと思っております。いずれにせよ菅総理のままで
は復興は無理だということを明らかにして今日はビデオレターを終わらせて
いただきます。是非とも皆様の御理解をお願いしたいと思っております。あり
がとうございました。